

## はじめに

鎌倉市では、年度ごとに図書館で実施した事業を、この「鎌倉市の図書館」にまとめていますが、平成29年度の「鎌倉市の図書館」を作成いたしました。

文部科学省の会議資料では、半数以上の高校生が1ヶ月間に本を1冊も読んでいないことが報告されています。また、民間調査会社の調査結果でも、「読書週間あり・読書好き」はともに、減少傾向であり、習慣的に読書を行わなくなっているだけでなく、読書そのものを好きと思う人がすくなくなるなど、読書離れが進んでいます。このような中、鎌倉市では、平成29年度に第3次鎌倉市子ども読書活動推進計画を策定し、平成30年度は第3次鎌倉市図書館サービス計画を策定しています。これらの計画に基づき、様々な活動を通して、読書離れを食い止めていきたいと考えています。

さて、鎌倉市図書館は、鎌倉市図書館協議会から、図書館業務の効率化とサービス向上について、平成28年11月9日に答申を受けました。この答申を踏まえて、平成29年度は、平成29年6月1日から8月31日にかけて、玉縄図書館では、非常勤嘱託員を中心として体制について、大船図書館では、開館時間の延長の試行を行いました。また、平成30年度は、平成30年9月1日から11月30日まで中央図書館と腰越図書館において、18時までの開館及び平日の月曜日の休館の試行を行っていました。これらの試みについては、今後の図書館の運営に活かしてまいります。この試行の背景としては、少子・高齢化社会の進展等による税収減により、自治体が使える予算、人材も限られてきており、いかに効率的に予算を使い、市民の要望に応えられるサービスを提供していくか自治体の知恵が試されているところで、図書館も例外ではないという点にあります。

この「鎌倉市の図書館」は、平成29年度に図書館が実施したサービスの成果が記載されていますが、これら図書館活動を評価し、図書館をより使いこなしていただくための資料として多くの方にご活用いただければ幸いです。そして、図書館に多くのご意見・ご要望をお寄せいただければと思います。今後も市民の方に利用しやすい図書館を目指していきたいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成31年1月20日  
中央図書館長  
青木達哉